

今こそ地域の一員として

東成総括施設長 林 祥子

柔らかな春の陽射しに包まれて新年度がスタートしました。

今年は3人の新しいスタッフを迎え、にぎやかな幕開けとなりました。

昭和62年5月に開所しました東成育成園は、今年で30周年を迎えます。今里の地で長きにわたり事業を続けてこられたのは、法人会員の皆様はじめ、地域の方々のご理解とご支援があつてのことと改めて感じ入っております。時の流れとともに、施設に求められる役割も開所当時とは移り変わり、まさに社会資源の一つとして近隣の方々だけでなく、地域での活動にも参加することが増え【育成園】の名が広く浸透しつつあります。社会福祉法人制度改革の中で《地域への公益的取組み》が責務と謳われているように、地域へ積極的に貢献することを求められる今、築き上げてきた関係を大切に、地域における福祉課題の発掘や解決を進められるようアンテナを張り巡らしていきたいと思ひます。

また、老朽化が目立っていた施設本体については、この節目の年に合わせ、一昨年より進めておりました改修工事も終了し、内装・外装とも明るく優しい雰囲気生まれ変わりました。利用者の皆さんは明るくのびやかな雰囲気の中、少しずつ新しいことを取り入れ、その変化を楽しみながら、仕事と余暇を上手く両立させながら過ごしておられます。

30年・・・30歳・・・人で言えば『而立(じりつ)』の年。自身で物事を考え行動できる歳と言われており、最も働き盛りの時でもあります。東成育成園・東成区障がい者相談支援センターともにこれまで以上に持てる機能を発揮し、皆さんの豊かな暮らしを支えていけるよう努めてまいります。

一人でも多くの方に笑顔で過ごしていただけるよう、職員一同、心と身体を健康に保ち、地に足を付けて職務に励んでまいりますので、今年度もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



利用者のそばにいること

港育成園
管理者 松本 源太郎

しずこころなくはなのちる
らむ・・・
ちょうど桜吹雪が舞い散るこの時期にこの原稿を書いています、この句が身に染みる思ひです。

29年度も引き続き、港育成園の管理者を務めさせていただくことになりました。

今年度は、さらに気を引き締めて港育成園の運営に取り組みたいと思ひています。

昨年度は第2期の改修工事として、港育成園の一階トイレ、共有部分塗装、LED化、2階部分の大幅なレイアウト変更をしました。

2階にはこれまで4つの部屋があり、2つは作業室として、残り2つは会議室(多目的利用)とちょっとした休憩室として利用していましたが、使い勝手の点で不都合もありました。今回の改修工事では、ひとまわり大きくした2つの作業室と多目的室を設け、従来よりもゆっくりと過ごして頂けるようになりました。

改修工事の際には港第二育成園の場所を借りたり、利用者の方々には負担をかけてしまいましたが、きれいになった作業室やトイレ等を利用することができ、快適に過ごせるようになっていきます。

さて、港育成園の本体の事業ですが、契約数はさほどの変動はなく42名の契約となっています。

昨年度の港育成園のテーマとして、「利用者の思ひを知る」という事を掲げ、意思決定支援について会議やスタッフ間でもよく話しをしました。

障がいの重さに関係なく、その人の思ひや意思はあつて、言葉では表現のできないときに、そのときに「こうかな?」「こう思ってるのかな」と少し、利用者の側に寄り添って話を聞ける姿勢があつたら、その人はちょっと楽にならないかなあ、と。

日中活動でほぼ毎日顔を合わせる支援員は、さらに近い立場で利用者の方々を見ていることから信頼感が生まれるのではないと思ひます。

今年度の初めの職員会議では、基本にもう一度戻ることと昨年のテーマ(利用者の声に耳を傾けること)をより深めることの両方を込める思ひもあり、「利用者中心の支援とは」ということを掲げました。

日中活動の中でどれだけのことがお手伝いできる